

成果報告書

(地域文化倶楽部創設支援事業)

有限会社 劇団風の子

所在地	東京都八王子市	設立年	1950年
運営主体	有限会社劇団風の子		
事業目標	八王子市の子どもたちと創る演劇プロジェクト、高尾山演劇倶楽部は、演劇の集団創作を通して、子どもたちの表現力や、コミュニケーション能力の向上を目指し、自己肯定感につなげる。		
きっかけ	劇団風の子は1990年に、八王子市美山町に宿泊設備を備えた演劇の稽古場を新築した。そして、この稽古場を拠点として多くの芝居を、創出し、全国の保育園幼稚園、小学校、中学校などで公演活動を展開している。これまで以上に八王子市の小学校、中学校、NPO法人八王子子ども劇場との関係を強めながら、コロナ禍における現状を見極めつつ、子どもたちに文化芸術体験の場を創っていきたいと思ったことが、この事業を立ち上げたきっかけです。		
団体・組織等の連携	劇団風の子、八王子子ども劇場、八王子市立中学校教諭、八王子市立中学校演劇部指導員、八王子市立小学校教諭と連携をとり、6回の運営会議を持ち話合った。参加者の募集については、八王子市教育委員会後援をもらい、市内の全中学生、小学校4年生以上の全生徒にチラシを配布した。		
活動場所	八王子市生涯学習センター(クリエイティブホール) 八王子市北野市民センター 八王子市子安市民センター 劇団風の子稽古場		
活動概要	■ 頻度、回数 9月から2月 第2、第4土曜日(もしくは日曜日)、1回 3時間程度の表現ワークショップや劇の稽古(15回) 2月の発表会が終わったら、別日でふりかえり(1回)		

○本事業による成果

八王子市全域の小学校、中学校に参加応募のチラシを配布したため、ほとんどの子が初対面であり、初めの数回、子どもたちはかなり緊張している様子だった。参加児童保護者からの応募用紙にも、「劇には興味はあるが、みんなの前で発表したりするのが苦手です」などとのコメントもあった。

実際に始まり、毎回の遊びのワークショップや各参加者の得意技披露の場などを続けていくうちに、子どもたちの緊張した心も、とき解れていき、学校や学年の垣根なく友人ができるという効果が得られた。

また今回は、参加の子どもたち各自が書いた物語や詩からの3本の作品を作り、作詞や作曲、ダンスの振り付け、絵なども子どもたちが担当した。自己紹介、特技の披露(縄跳び、ダンス、お手玉)、作文の朗読、3本の創作劇、歌の合唱を組み合わせて公演した。このことが子どもたちの大きな自信、意欲、いきいきした表情に繋がったと思う。

保護者や観客のアンケートにも、子どものの生き活きた表現に驚き、感動したというものが多かった。

○児童・生徒への指導に関する工夫

長年子どもたちとの表現ワークショップや創作劇づくりの実践を重ねている劇団風の子の講師達が先ず、参加した子どもたちにこの場が安心できる場所であると伝えるために、楽しい表現遊びを積み重ねていった。

劇団キャンパスという子どもたちが考えた劇団名の決定に当たっても、子どもたちの意見を根気強く丁寧に聞くことで、この会を自分たちで作り上げていくんだという気持ちが芽生えたと思う。

子どもたち本人の自主性、発想力を、大事に考え、無理強いをすることなく進められた。

参加した子どもたちの中にみんなと同じ行動をすることを希望しない子がいた場合、どうしたらその子のやる気を引き出せるかを他の子どもと一緒に考えて進めたことが、お互いの信頼関係を生んでいったと思われる。

発表会の直前まで、子どもたちをリラックスさせながらも一定の緊張感を感じさせてモチベーションを上げていったことが、発表当日に子どもたちが大きく飛躍したことに繋がると思われる。

○運営上の工夫

- 活動に必要な用具道具については、劇団風の子の楽器、大道具小道具、照明、音響機材など、運搬も劇団風の子車両、道具などの保管も稽古場を使った。
- 地域運営委員として八王子市立小学校、中学校教諭と連携したことで、コロナ禍での学校での様子、学校の年間スケジュールなどを知り、会場、生徒募集の方法、子どもへの対応など、いろいろ相談できた。
- 活動経費として、主な収入源は参加者からの会費、全コースで一人5000円集金。
主な支出先は、各講師への謝金、地域運営委員の謝金、会場費、大道具小道具の制作費、保険代等。
- 行政との連携体制としては、活動の日程や時間を決めるときに八王子市の土曜授業、行事、試験期間などを伺った。また、教育委員会には後援をもらった。
- 生徒の募集については、6月に地域運営委員で話し合い、募集チラシの全校配布を八王子市教育委員会にお願いしたが期日が間に合わず。今年度は劇団風の子の劇団員が全校回って配布を依頼した。
- コーディネーター、ファシリテーターらの役割を担う人材育成については、今回は、初回だったのでキャリアのある講師だけで進めていったが、後半は劇団風の子の俳優たちが関わり、いろいろな役割を担当できた。

○継続的な運営に関する課題・展望

令和3年度のこの事業を通し、近隣の教育機関の現状と子どもたちの現状を知ることを試みた。八王子市内小学校11校 中学校2校 19人の子どもたちが参加し、毎月2回 土日に活動していく中で、子どもたちの学校生活、放課後の塾、習い事などの状況は少しずつ把握できてきた。
また、既に地域で子どもたちが心豊かに成長していく文化芸術体験活動を繰り返している八王子子ども劇場とも連携することができ、地域の人たちや保護者もこの活動に大いに興味を持っていることがわかってきた。
コロナ禍以降、経済格差がますます広がることは予想できる。その中で子どもたちの不登校は確実に増え若年化の傾向にあり、クラスの不登校の生徒への対応が個々の教員の負担になっているという現実がある。劇団風の子が目指しているものは演劇を中心においた子どもの居場所作りであり、登校、不登校には関係なく参加が可能であるため、居場所の提供という面で、教員の負担は軽くできると考える。
今後も近隣の保育園、幼稚園、小学校、中学校等の教育機関、八王子子ども劇場などの地域活動団体、保護者との連携が課題となる。

○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・計画

今回の取り組みで、子どもたちの現状はある程度は把握できたが、まだまだ全体的な掌握までには至っていない。学校部活動を段階的に地域以降することは時間がかかる事業である。教員にとって、働き方改革を進めていく中で何が重要なのか、そして、それが子どもたちにどんな影響を与えるのか、慎重に考えながら進めていかなくてはならないと考えている。
令和3年度、運営会議に参加していただいた小中学校教諭、中学演劇部指導員、八王子子ども劇場代表とさらに話し合いを重ねることで筋道を考えていきたい。その上で学校長との連携を探り、八王子の校長会でこの事業をアピールしたい。まずは理解者を増やすことから始める。

参加者 (予定人数)	対象学年 小学校4年生～中学3年生 19人 今後の予定人数 25人
募集方法	八王子市立中学校、小学校4年生以上の全生徒にチラシを配布。劇団風の子のホームページでの呼びかけ。ポスター掲示。説明会・体験ワークショップを受けた後、申し
指導者	劇団風の子から講師2名、その他、俳優が協力。
移動手段	保護者による送迎。駅で集合しスタッフが引率。
活動費用	全コース、一人 5000円
スケジュール	9/12 説明会・体験ワークショップ、9/25、10/9、10/23、11/14、11/27、12/12、12/25、 1/8、1/22、2/9(各3時間) 2/5、2/6、2/11、2/12(各6時間) スタッフ会議 月1回
保険加入等	行事参加者の障害危険担保契約(東京海上日動火災保険)、延べ273人

